

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体会議、ユニット会議にて事業所理念を確認、共有を図った。またユニット内重点取り組みを掲示し実践につなげている。	事業所理念である一人一人を大切にしたいその人らしい生活への支援とともに、重点項目、個別ケアの推進、職員の資質向上を図る目的で各種研修会への参加の推進を掲げ、いつでも確認出来るよう、玄関先や各ユニット入り口に掲示している。ユニット会議にて周知を図り、日々のケアの中で、実施出来ているかを評価しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外気浴の際には声をかけていただき、互いに笑顔のある挨拶を行っている。近隣の方からの野菜をいただく事も多い。また、地域行事や施設行事等、互いに声を掛け合って参加出来るようにしている。	コロナ過により買い物にはまだ行けていないが、職場体験で中学生2名の受け入れを行った。また小学校の運動会では少人数での見学や、屋上に横断幕を張り応援参加が出来たとのこと。近所より差入れの柿を昨年は干し柿に、今年はお茶請けに美味しくいただいた。ドライブ等も感染の状況を確認しながら出来ることから交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在感染症対策により見合わせているが、介護予防拠点を体操教室や休憩所として解放している。他看護学生の体験学習の受け入れなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、事業報告やサービスへの相談をし助言や要望をいただいている。コロナ渦の為書面での報告が多い。伺ったご意見等サービスの向上につなげている。	運営推進会議は7月は事業所にて開催したが、9月は書面開催となってしまった。参加者は、地域代表の区長、民生員、市からは包括支援センターの参加など、利用者が地域住民の一員として生活することへの心強い協力者でもある。事業についての理解を得ながら、防災訓練への誘いや、昨年は保存食の試食会を行い、次の企画も検討中である。会議報告は行政へは行っているが利用者家族へは案内文にて意見をもらっている。	運営推進会議は報告や情報交換に留まらず、地域や利用者家族から貴重な意見や助言を聞く大事な機会の一つとして捉え、事業のサービス向上を図ることが求められる。意見、要望をより多く聞かせてもらう工夫や努力とともに、会議に参加されなかった家族へ、会議内容の報告を行い、共に事業所の課題等が共有出来るよう工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員から参加をして頂き、報告に対しアドバイスや意見をいただいている。また不明な点は市の担当者に連絡をしている。	市からは特養の入所検討会を通じてアドバイスを受けている。また緊急性の高い方で入所に関する相談も出来ている。入所間もない方が落ち着かないことへの相談や状態の変化による区分変更など、事業所の実情や、その時々抱える課題を伝えながら関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修に参加している。勤務上参加出来なかった職員に対しても、ユニット会議にて復命研修を行っている。施設玄関は防犯上の理由により夜間のみ施錠している。	法人内研修や外部研修、または職場内研修にて虐待について学んでいる。未参加の職員へは復命研修の形で対応している。毎月のユニット会議にて共有を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。センサーについては18名中数名の方が使用しているとのこと。状態の変化による必要性を随時確認し、利用者家族へ報告説明を行い、記録に残している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に参加している。勤務上参加出来なかった職員に対しても、ユニット会議にて復命研修を行っている。	法人主催の研修会に参加し、虐待について学んでいる。虐待マニュアルを確認しながら、いつでも誰にでも虐待はあるかも知れないという可能性を頭に、日々の支援に当たっている。また、毎年ストレスチェックを行い、何時でも相談出来る体制は出来ており、管理者は職員の疲労が蓄積されないよう随時声をかけ、心身の負担の軽減に努めている。職員間で共通認識を持ちながら虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加している。勤務上参加出来なかった職員に対しても、ユニット会議にて復命研修を行っている。必要時に制度を利用できるように支援している。現在1名包括支援センターと連携して取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書や重要参考事項説明書の説明を行っている。不明点等もお伺いし、説明を行っている。法改正があった場合にも文書や口頭での説明を行い、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口の説明を行っている。またケアプラン作成時や電話連絡にてご意見・要望を伺い、ユニット会議で情報共有・検討を行っている。	事業所として相談窓口があり、気軽に相談出来る体制作りに努めている。利用者家族からの要望により、受診後に一緒に食事が出来るよう配慮することもあった。可能な限り要望を受け、運営推進会議やユニット会議にて報告を行い、情報の共有を図りながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務やユニット会議、人事考課面接の際に意見を聞くように心掛けている。意見はユニット会議等で話し合い、事業会議の際に報告し、運営に反映させている。	人事考課面接やユニット会議等、職員からの意見を聞く機会の一つとして捉え、出来ることから対応している。管理者は出された意見を事業所会議にて報告を行い、意見を取り上げる努力や出された意見は事業運営の参考にする等、働きやすい環境作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規定に基づいて運営している。人事考課制度に取り組み自己目標を掲げ、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人研修、施設研修、また法人外の研修へも計画的に参加をしている。そのユニット会議にて復命研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県認知症高齢者グループホーム協議会に加盟し、研修会でノン他施設の職員と交流する機会がある。また法人内のグループホームと連絡を取り合い、協議・検討を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から情報収集を行っている。可能な場合は本人自身への面会、施設見学にも来ていただき、その際にも話を聞き安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業者側からの説明だけでなく、ご家族様の立場になり不安なことや要望等を伺うよう心掛け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様、居宅介護支援事業所からの情報を基に支援内容を検討し必要なサービスが提供できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で入居者の方の出来ることを大切にし、それぞれ役割を持ち生き活きと生活していただけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や日用品の用意はおおむねご家族様が行っている。面会時や電話、毎月の手紙にて様子をお伝えしている。また、支援方法についても相談している。	病院受診は家族から協力を得ているが、遠方や高齢ご家族に対しては、地域医療の訪問診療にて対応している。事業所の基本姿勢は地域とのつながりを大切に在宅時のかかりつけ医を継続としているが、家族の都合も聞きながらのお出掛けや、面会の機会と捉え、本人家族の絆を大切に支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医を継続し利用して頂く他、外出の機会にはなじみのある場所を考慮し出かけるようにしている。現在外出や面会に制限があるが可能な限り対応している。	なじみの関係を大切に支援しているがコロナ過により出来ないことが増えてきている。その中で工夫し感染防止に努め、地域へのドライブや受診を機会に、ゆっくりと家族との時間が持てるよう対応している。現在も面会は窓越しとしているが、特別に居室にて対応することもあった。感染状況を見ながら可能な限り利用者の気持ちを大切に今出来る支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活や他者との関係性を観察・把握してより良い関係性を持ち支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族様の相談に応じる他、他事業所や医療機関への情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子や会話の中からここに希望や意向の把握に努めている。聞き取りが困難な肩に対しては、過去の生活歴やご家族からの聞き取りを行い、思いを汲み取ることが出来るように取り組んでいる。	入所時の事前面接情報や、その後の面会、電話での会話の中から、また在宅ケアマネージャー、事業所からの情報など、出来る限り、多くの情報を基に意向の把握に努めている。入所後も本人の何気ない会話や仕草からヒントを得ることもあり、職員は毎日の関わりの中で思いをくみ取り、楽しみの時間が増えるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様～生活歴や習慣・環境について情報収集している。また、入居前の担当介護支援専門員から話を聞いたり自宅へ訪問させていただいている。	生活歴も含め、家族や本人、これまでのサービス利用の事業所やケアマネージャー等から情報を得ている。大切にしていることや好み、嫌いなこと、生活上の拘りなど、入所後も、生活環境の変化を最小限に留めるよう、暮らし方の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの作成、定期的な更新を行いその都度状況の把握に努めている。また24時間シートへの記録、職員間での申し送りにより情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向を確認し、ユニット会議にて課題や支援方法を検討しながら現状に即した介護計画を作成している。またチーム全体がより良い支援を行うことが出来るように、意見交換をしている。	利用者本人や家族から確認した今迄の生活や居宅ケアマネージャー等の情報から入所時暫定プランを策定し、全職員参加の24時間シートに記入している。1ヶ月後、3ヶ月後のモニタリングにて修正し、6ヶ月毎に会議にて計画を見直している。コロナ禍の現在は、本人の意向を確かめ、電話で家族の意向を聞き、サービス担当書会議を開催し、受診結果から通院している医療関係者にも参加願う時もある。家族に送付し同意を得ており書類は整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートに沿った個別の記録を行っている。また申し送りや連絡ノートを使用し情報の共有・検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対応できるように決められた業務に囚われず、職員間で業務の調整をして柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年地域の行事に声をかけていただき参加しているが、現在感染症対策により見合わせている。また近隣の方から野菜をいただくことも多く、その時期の新鮮な野菜を食べ季節を感じていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に継続して受診の際にはご家族様が付添い、状態についてはご家族様、ケアマネが書面、米ネットなど利用し報告している。緊急時や必要時は職員が対応している。	緊急の受診は職員が対応し、通常の受診は家族が対応し送迎している。受診時、必要な医師へは、計画作成者が電話やメール等で伝えるフローチャートがあるが、家族送迎時、事業所から医療関係者に現況等伝え、医師からの伝言も、家族経由の口答で行っている場合が多く、生活状況を知らせる手段は特に用意されていない現状がある。	現在、入居前からのかかりつけ医師への受診が多く、家族送迎時、多くの場合医療関係への伝言を家族との口答で行っている。今後は、変化しやすい利用者の現状を医師に伝え適切な医療を受け、すこやかな日々を過ごすことが出来るよう情報を共有し、関係性を大切にしながら支援関係を継続するためにも、関係書式を用意し、情報を共有しあえるような工夫を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度当施設の看護師に医療連携にて様子を見てもらい状態報告や相談を行っている。緊急時にも24時間オンコールで連携している為すぐに連絡が取れる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を医療機関へ提供している。入院時には適宜ご家族様や病院の地域医療連携室と連絡を取り、カンファレンスを行いながら早期退院に向け協議している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居前にご家族様へ説明している。状態が低下していく中でご家族様と早めにご家族様と面談を行い可能な限り本人やご家族様の意向に沿うことが出来るようにかかりつけ医や多職種と連携を取り対応している。	入居時の説明を丁寧にしており、状態変化や状態に応じて家族に相談させていただくことがあり、事業所では重度化や看取り対応は、今まで積極的に行ってはいなかった。今回、利用者の急な変化で看取りとなり、オンライン研修等でターミナルケアを学んでいたこともあり、対応しその後職員は看取りカンファレンスも開いている。今後も看取りについてのマニュアル等を整備し、利用者の突然の変化等見逃すことのないよう日々のケアに生かせる取り組みの継続を期待したい。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修や施設研修に参加をしている。参加出来なかった職員に対してユニット会議にて復命をしている。急変時のマニュアルも整備し、急変時にはマニュアルに沿った対応が出来るようにしている。	事故発生防止の指針、離設事故マニュアル、終末期(看取り)マニュアルの整備やオンライン研修等が行われている。普段の生活支援時も急変時のマニュアルに沿った対応となるよう、管理者はじめ職員は意識しながら支援している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、非常時に備え対応できるよう努めている。また防災機器の取り扱いや消火訓練を実地している。地域の駆けつけ人もおり協力体制が出来ている。	防災訓練等災害対策は訓練記録、研修、マニュアルが整備されている。コロナ禍で防災訓練は、地域の方と一緒に行動はできなかったが、適切に報告は行っている。また、防災機器取り扱い説明の研修を行い、非常時に備え、対応できるよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、自尊心、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。排泄や入浴の際は特に注意している。申し送りの際にも呼名は控える当工夫や配慮をしている。	「不適切ケア」についての研修は行われており、排泄や入浴時の声掛けなど配慮の必要性について詳しく研修している。不適切ケアの中に、「人としての尊厳・」はあるが「プライバシー保護」についての具体的な守るべき内容や研修が行われていない現状が見受けられるので、今後もマニュアルの整備や研修内容の常なる検討が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々コミュニケーションを十分に取り、思いや希望を傾聴し自己決定出来る関係、環境作りに努め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れや活動等の声掛けは行うが、一人ひとりの生活リズムやその時々意向を汲み取り柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で出来ることは行っていただき、意向を確認しながら衣類や洗面道具等の準備など必要な部分は準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食事の好みを把握し、伺いながら献立を立てている。また、旬な食材を使うことで季節を感じる事が出来るように配慮している。コロナ渦の為控えているが配膳、下膳、調理なども一緒に行っている。	以前は2つの入居棟の食材や献立は、それぞれの利用者の希望やその季節で食べたいものを決め、利用者と買い物に出かけていた。コロナ禍の現在は職員が買い物に出かけている。食事を楽しむことが出来る個別支援を心掛け、朝食の時間なども、その利用者の生活リズムを大切に提供しており、好評を得ている。同敷地特養の栄養士から献立へのアドバイスも得ている。お楽しみ会やお茶会など季節のイベントを大切にしながら、食事を楽しむことが出来るよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考える他、食事内容や形態、量などに配慮している。食事量も24時間シートに記録し、食事の様子や体重変化にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態にあった方法で口腔ケアの声掛けをしている。必要時一部解除見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方に関しては排泄チェック表を使用し排泄パターンの把握や現状どのような援助が必要か検討している。	食事やおやつ時間を大切に、水分摂取とともに、牛乳寒天、オリゴ糖使用のヨーグルトなど、美味しく食べながら排泄の自立へつながらよう排泄チェック・パターン把握などの支援を行っている。それぞれのペースで園内歩行、体操、出来る部分の清掃参加などを支援し、また、共有のトイレと自分の居室にもトイレがあり利用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の入居者の排便状況の把握と共に、下剤の調整やオリゴ糖、乳製品を提供している。日々の食生活においても水分量のチェックや食物繊維の豊富な献立を立てる。適度な体操を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずにその都度声をかけ実地している。希望があった場合にはそれに合わせ入浴をして頂いている。	以前は、近くの足湯や日帰り湯へのドライブなどが利用者の楽しみであったが、現在はおよそ週2回から3回入浴し季節のゆず湯や菖蒲湯などで入浴している。リフト浴の方も各棟で2~3人おり利用者の状態やその方に合わせ入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向によりいつでも居室に戻り休んでいただける状況になっている。眠気が見られるときには声掛けをしている。居室は個々の状況に応じて照明や寝具、ベッド配置など居室環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のお薬カードはファイルに閉じられており、いつでも確認できるようになっている。内服時には誤薬防止の為本人確認の徹底、飲み込むまで確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方に毎日の楽しみや役割を持って頂けるように支援している。軽体操や洗濯物干しやたたみ物など家事活動も少しずつ増やし散歩など外気浴も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在も感染症対策の為見合わせているが、買い物や散髪等、個別の外出の機会を設けている。また季節に合った場所へのドライブなど少しずつ行っている。受診の際にご家族様と自宅へ戻られる方もいる。	季節の花見などドライブでの外出は、少しずつ感染症対策に留意しながら行っている。感染症が落ち着いてきたら、いつもの「足湯」等々に出かけたり、毎日の食材購入の同行や行楽など、また家族との外出等、利用者は楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には大金はこちらで保管し管理はしているが個人で小銭など管理し外出時や自動販売機などで使用することもある。その都度職員が見守りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には電話をかけたり、電話があった際には取りついでいる。手紙やはがきなどがと説いた際には、返事が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る時間に掃除を行い清潔保持に努めている。温度や照明の光度等、入居者の方々に合わせ調整している。リビングには季節感のある飾りや花を飾るようにしている。	事業所内は清潔に清掃されており、窓からの自然の景色を効果的に取り入れ、利用者の動線と視線がうまく交差し、事業所内から見える自然の中にいるようなゆったりとした明るい雰囲気の中で介護が行われている。展示物の高さや量、場所も配慮されており、職員が居心地よい空間づくりを工夫しながら支援している様子が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う方同士で談話されたりテレビを見たり、一人ひとりが自由に過ごせるようになっている。窓側にソファを配置し思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた親しみのある家具等を持ち込んで頂き、ご本人、ご家族様の意向に沿った空間作りを行っている。	廊下の所々のあるトイレと、各自の居室にもそれぞれのトイレと洗面所が整備されている。利用者は、使い慣れた身の回りの家具や炬燵などを持ち込み、自分の生活が過ごしやすく居心地よく感じられるような環境の工夫が提供されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは安全に配慮した配置を心掛け、またキッチンや洗濯物干しなども入居者の方にも利用しやすい環境を心掛けている。		